

## 巻 頭 言

### デファクトスタンダード とスピード開発の両立を



金型機械事業部 事業部長  
取締役 長 坂 康 正

経営面から見ても、技術者から見ても、技術開発の夢は、その技術が世界で認められ、デファクトスタンダードとなることであろう。歴史的に見て、そのような技術開発は10年単位の年月を要している。さらに幸運にも恵まれたことも多い。しかし、その確率を少しでも高めるためには、層の厚い基礎研究、潜在的ニーズの徹底調査、それらを継続的に支える人材の育成・研究開発費の確保、テーマの軌道修正にあたっての経営者、管理者の判断力など、文字どおり、企業の総合体力勝負となる。

今、日本をはじめ、世界のトップレベルの技術が、世界の工場と化した中国に注がれており、日本の物造りの空洞化の急速な進展が危惧されている。中国での自動車の開発、日本への輸出も遠からず実現する可能性は大きいと思わなければならない。

中国が、品質、コストとも世界のトップレベルの技術を手に入れるならば、我々はさらに高度な技術開発ポテンシャルを持ち続けなければならない。そのためには、科学的な市場調査、原子レベルの基礎研究、材料、製品設計・生産技術開発のサイマルテニアス化、ナレッジデータベースの蓄積、IT、SQCの徹底活用などにより、技術開発のスピードを速める必要がある。

ノーベル賞受賞者などのお話を伺うとき、自らの仮説に基づき、納得のいく実験装置を造り、その中から“事実”を引出し、独創的な理論を導き出しておられる。ミクロな世界、瞬間の中の“事実”から、デファクトスタンダードに大きく成長する技術へとどのように結び付けていくか、研究者、技術者、管理者ともども夢を大きく描きながら、知的好奇心を持ち続けていきたい。